

九州共立大学

スポーツ学部

2023 年度

カリキュラムマップ

# 総合共通科目

(2016～2018 年度入学生)

<p>学是 (学則第1条の2)</p>				<p>本学は、建学の精神「自律処行」、すなわち自らの良心に従い事に処し善を行うことを学是とし、この学是に則り、自ら立てた規範に従って、自己の判断と責任の下に行動できる人材を育成する。</p>				
<p>スポーツ学部の人材養成及び 教育研究上の目的等 (学則第3条の4)</p>				<p>スポーツ学部及びスポーツ学科は、学是「自律処行」の精神に基づき、幅広い教養を身につけ、かつ専門性を併せ持ったスポーツ指導者・健康づくり指導者を養成することを目的とする。併せて、自己理解の基に、他者との協調性、寛容性、社会性、コミュニケーション能力を育み、リーダーシップの取れる人材養成を目的とする。</p>				
<p>卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー:DP)</p>				<p>本学は、学是「自律処行(自らを律することができ、自ら考えて判断し、責任を持って行動する)」を体現し、総合的な教養、特定専門分野に関する知識を身につけ、深い考察力を備えることを目指す。その実現のために、卒業認定・学位授与の方針(DP)を3つの領域(知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性・倫理性)から構成し、各課程を修め、目標を達成した学生に卒業を認定し、学位を授与する。</p> <p><b>【知識・技能】</b> キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。</p> <p><b>【思考力・判断力・表現力】</b> 本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。</p> <p><b>【主体性・協働性・倫理性】</b> 高い倫理性をもって自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。</p>				
<p>教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー:CP)</p>				<p>本学では、学生が大学の卒業認定・学位授与方針(DP)の目標を達成するために、総合共通科目、専門教育科目を体系的に編成し、科目を配置する。教育内容、教育方法、教育評価については、以下のとおり方針を定める。</p> <p><b>【教育内容】</b> 1. 総合共通科目は、「教養教育科目」、「キャリア教育科目」を中心に、現代社会を生き抜くために必要不可欠な幅広い教養、および基礎学力等を体系的に学べるように科目を配置する。 2. 専門教育科目は、各学部・学科の専門的知識を修得するために、基礎的内容から応用・発展的な内容まで体系的に学べるように科目を配置する。また、学問領域を超えた学際的な知識修得科目を配置する。</p> <p><b>【教育方法】</b> 1. 学生の主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)が実現されるように、双方向的・学生参加型授業、課題解決型授業などの多様な授業形態を取り入れた教育方法を実施する。 2. 学外実習等を通じて体験的な学修活動を実施する。</p> <p><b>【教育評価】</b> 1. 各授業は、シラバスによって明確化された到達目標と成績評価方法に従い単位を付与する。2. 学修成果は、卒業要件の各区分単位を満たすことを含め、総合的に評価する。</p>				
<p>スポーツ学部のカリキュラム</p>				<p>卒業認定・学位授与の方針(DP)と授業到達目標との関係〔◎特に関係する ○関係する〕</p>				
科目区分	授業科目名	配当年次	開講学期	授業概要	授業到達目標	【知識・技能】 キャリア教育や教養教育等を通じて現代社会を生き抜くために必要となる教養を身につけている。また、専攻する学問分野における基礎的な知識・技能を修得し、職業人としての基本的な力を兼ね備えている。	【思考力・判断力・表現力】 本学学修プログラムを経て身につけた知識・技能に基づき、自らの考えを組み立て、人と向き合えるコミュニケーション能力を身につけている。また、地域や社会における課題を発見・分析し、他者の意見も踏まえ、解決方法を客観的に考察できる能力を身につけている。	【主体性・協働性・倫理性】 高い倫理性をもって自らを律し、主体的に物事を考え、責任感を持ち合わせた行動ができる態度を身につけている。また、地域や社会の一員として意識を持ち、他者との協働を通じて物事を達成しようとする協働力を身につけている。 ※「倫理性」は2023年度以降の入学より適用
総合共通科目	ステップアップ講座B(英語基礎)	1年生	前・後	本科目では、英語Ⅰまたは英語Ⅱと同時進行で、TOEICに挑戦するために必要な基礎英語力を養いながら、TOEIC受験対策を実践的に行います。特に、350点程度のスコアを獲得できる語彙力、文法知識、リスニング力、読解力を身につけることに重点を置きます。また、TOEIC Bridge Listening & Reading IP TestやTOEIC Listening & Reading IP Testを受験することを目指します。	1. 学内で実施されるTOEIC Bridge Listening & Reading IP TestやTOEIC Listening & Reading IP Testを受験し、TOEICの出題形式に慣れる。2. 授業で学習したリーディング・パートの内容について、60%の正答率をもって答えることができる。3. 授業で学習したリスニング・パートの内容について、60%の正答率をもって答えることができる。4. TOEIC Listening & Reading IP Testにおいて、350点程度のスコアを獲得することができる。	◎	○	○
総合共通科目	文学の世界	1-2年生	前・後	本講義では、主に1920～50年代の日本の詩を取り上げる。1920年代から1950年代にかけての時期には、関東大震災や太平洋戦争など、歴史の転換点となる数多くの出来事があった。このような激動の時代において、日本の詩人たちは、社会の大きな変化と向き合いながら、詩に関するさまざまな試みを行った。本講義では、特に詩の表現(どのように書かれているのか)に注目し、それが、どのような社会的あるいは文化的背景のもとに生み出され、またどのような文学表現上の効果を持つものであったのかを考察することを目的とする。	・日本の詩を自分なりに丁寧に読み解くことができる。「ことば」による表現と社会や文化の動向との関わりについて考えることができる。・1920～50年代の日本の社会や文化に対する造詣を深めることができる。	◎	○	○
総合共通科目	文学の世界	1-2年生	前・後	本講義では、平安時代の古典文学、特に物語作品を扱い、それぞれの作品における成立背景、伝本、研究史を踏まえて作品を講読する。古典文学の知識は、社会人としての教養、および教育のための専門的な知識や技能の習得に資するのはもちろん、現代の娯楽作品の受容にも関わるものである。また、授業中に適宜くずし字資料に接し、校訂を経っていない古典文学の姿を知る機会を設ける。	1. 中古の文学作品の名称、作者、成立時期、ジャンルについての知識を持つ。2. 中古の文学作品を読んで理解することができる。3. 中古の文学作品を読んで興味を抱いた点、疑問に思った点を整理し、説明できる。	◎	○	

総合 共通 科目	文学の世界	1-2年生	前・後	日本の伝統的な詩形である歌(歌謡・和歌・短歌)を講読する。現存する最古の文書『古事記』に残されている歌、最古の歌集『万葉集』、小倉百人一首をテキストとして、わが国の伝統と文化を考える視点を提示する。単に、古典和歌の知識を講読するだけではなく、実作を促し、創作物の提出を求める。	・古事記、万葉集、小倉百人一首に関する基本的な知識を得ることができる。・日本の伝統文化に対する造詣を深めることができる。・文学作品に描かれた人物・情景・心情の表現とその効果を読みとることができる。・文学作品と人間・社会・自然との関係性を理解することができる。	◎	○	○
総合 共通 科目	文学の世界	1-2年生	前	遠藤周作は、その作品を通して、日本人とキリスト教との関わりを生涯追究した作家です。人生の意味をあたかく誠実に問う作風は、今なお多くの読者に親しまれています。また遠藤文学は、代表作『沈黙』のハリウッド映画化、長崎・天草の潜伏キリシタン関連遺産の世界遺産登録などにより、近年ふたたび注目され国際的評価も高まっています。この授業では、人間の弱さや苦しみに共感の眼差しを向ける遠藤文学の特徴やテーマについて学び、作品の現代社会における意義を考えていきます。	1. 日本文化の諸分野に対する造詣を深めることができる。 2. 文学作品を通して「かくれ切支丹(キリシタン)」の歴史を知り、価値観の多様性や異文化との共生に対する視点を養うことができる。 3. ことばによる芸術的表現を通して、現代日本人にとって(信じる)ことは何かを考え、理解することができる。	◎	○	○
総合 共通 科目	文学の世界	1-2年生	後	本講義では、日本の現代文学やサブカルチャーにおけるポストモダンを取り上げる。ポストモダンとは1980年代の日本と欧米において流行した、思想・文学・芸術上の潮流のことである。日本では「ニュー・アカデミズム」と呼ばれ、文学批評や絵画、建築といった幅広い学問分野に影響を与えた。この講義では、活字メディア(文学、思想)に限定されない、非活字メディア(映画、マンガ、アニメ)を含む多角的な視野から、日本のポストモダン文化を考察する。	・日本の現代文化に関するアカデミックな教養を深めることができる。・1980年代の日本近代文学に関する基礎的な知識を得ることができる。・日本のサブカルチャーを批評的に楽しむことができる。	◎	○	○
総合 共通 科目	日本人論	1-2年生	前・後	この授業ではスポーツの文化について歴史的観点からスポーツ科学の発展を学び、今日のスポーツ文化を理解できるようになることを目的とします。そして、多様化したスポーツは今後どのような文化に発展していくのか考えることを目的とします。	学生さんはこの授業からスポーツの発展と進化について理解していただくことを期待します。スポーツを文化的側面から歴史的観点でとらえ、社会の発展とともに変化していくスポーツの在り方について考えていきます。授業の中で扱われるスポーツのルーツがどうようにして今日のスポーツへ進化したか考えましょう。最終的には自分の周りにあるスポーツをいろんな角度から捉えることができるようになることを目標とします。	○	○	◎
総合 共通 科目	日本人論	1-2年生	前・後	現代のスポーツは、オリンピックやサッカーを代表とするワールドカップのみならず市民マラソンや小中学校のスポーツ大会などにおいても政治・経済・教育などを含む社会生活の様々な側面と関連する大きな文化現象となっている。また、メディアや消費活動との結びつきを通して、その影響力は多面化し増大している。本講義においては、スポーツがどのような意味において「文化」なのか、どのような歴史的・社会的条件のもとで発展してきたのかを理解し、スポーツの影響力がどのような形で社会に及んでいるのかを学習する。	1. スポーツの発展における歴史的背景を理解し、スポーツ文化について説明できる。 2. スポーツの発展に関連する様々な社会環境について具体的な例を挙げて説明することができる。 3. 現代のスポーツが社会に及ぼす影響について理解し、スポーツの文化的価値を説明することができる。	○	○	◎
総合 共通 科目	政治と国際問題	1-2年生	前・後	政治と国際問題を理解するために、国家とは何か、また、それはどのような政治的営みを行うか、国家以外にはどのような国際関係の主体があるかを明らかにする。また、国際政治に対する主要な理論(リアリズム、リベラリズム等)に触れ、それらの理論の出現に大きな影響を与えた第一次世界大戦等の歴史について学習する。現代の国際的な課題についても学習する。その結果、政治と国際問題に対する基礎的な知識と能動的な思考能力を身につけることを目指す。	1. 国家をはじめとした国際政治の行為主体(アクター)についての基礎知識を身につけることができる。 2. 国際政治に対する基本的な見方・理論を把握することができる。 3. 国際政治の歴史および現状についての理解を深めることができる。	◎	○	
総合 共通 科目	科学を考える(生物)	1-2年生	前	「人」が社会で活動する時に必要な情報としての「人体の仕組みと働き」を取り上げる。食生活、健康、医療など、あふれすぎた情報に惑わされて、物事の本質を見逃してしまうことが少なくない。食や健康の話題を通じて、人間の社会活動に必要な生物学を学ぶ。	(1)三大栄養素(糖質・脂質・タンパク質)の代謝過程における相互関係について説くことができる。(2)「エイズウイルスはなぜ怖い」「ホルモン投与の危険性」等よく耳にする事柄について、誰にでもわかるように説明できる。(3)分子生物学の今後について、考察できる。	◎	○	
総合 共通 科目	宇宙の科学	1-2年生	前・後	この講義であなたは壮大な地球の歴史を学ぶことができる。なぜ、ほ乳類は母親のお腹から産まれるようになったのか?なぜ人類は2足歩行を始めたのか?北米大陸の先住民と日本人の顔・姿が似ているのはなぜか?最新の研究によって明らかにされた46億年にわたる地球の歴史とそれに伴う生物の進化を学ぶ。70億人を超える人類は、たった35人の母親から始まったことはあまり知られていない。授業では、美しいコンピュータグラフィックスを駆使した学術的番組(NHK地球大進化)を視聴しながら学ぶ。	①地球環境の激変によって生物の進化が促されたことが説明できる。②地球の自然環境の成り立ちと、現在の自然環境の問題点を理解できる。③進化における必要条件が理解できる。	○	◎	○

総合 共通 科目	宇宙の科学	1-2年生	前・後	地球は46億年前の誕生以降、様々な変化を繰り返しながら現在の姿となった。生命の誕生以降、地球上で起こった大規模な変動は、その劇的な変化にともない順応する生物種の繁栄と、適応できずに絶滅する種をもたらした。人類は現在の地球環境に最も順応している生命体のひとつであるが、今後の地球環境の変化の中では、地球の長い歴史に刻まれてきた多様な絶滅生物種と比較して例外とは言えない。本講義では、惑星地球が誕生して以降46億年間の地球の表層・内部変動や環境変化を学ぶとともに、現在の地球の構造や運動を理解し、大規模自然災害への対応や近未来の地球の変化予測についても学習する。	・太陽系惑星の中で地球の特殊性について基本的な知識を習得し、地球環境や地球の構造、また46億年におよぶ地球の歴史と生命進化について説明できるようになる。・地震や火山噴火などともなう自然災害等に関する基礎知識の習得し、防災意識が向上するとともに社会人として必要な地球科学的素養が身につく。・エネルギー資源や鉱物資源、ジオパークなど市民生活に密接な地球科学的素養を学ぶ。	○	◎	
総合 共通 科目	英語Ⅲ	2年生	前	本科目では、英語Ⅰおよび英語Ⅱで固めた基礎を土台として、日常生活で使われる英文の理解をさらに深め、運用できる力を4技能を通してバランス良く涵養することを目指します。授業で学んだ文法事項を使い、日常生活で使える英文の作成や日常生活に関わる英文理解のための学習を行います。また、英語圏諸国の基本的な文化理解も適宜行います。	1. 修得した文法知識や表現方法を使って日常的に使われる英文や、やや複雑な英語表現を理解することができ、簡単な英文を作成することができる。 2. 英語圏諸国の文化について、基本的な事項を理解することができる。 3. 授業で学習した内容の問題において、得点の60%程度取得することができる。	○	◎	○
総合 共通 科目	英語Ⅳ	2年生	後	本科目では、英語Ⅰおよび英語Ⅱで固めた基礎を土台として、日常生活で使われる英文の理解をさらに深め、運用できる力を4技能を通してバランス良く涵養することを目指します。授業で学んだ文法事項を使い、日常生活で使える英文の作成や日常生活に関わる英文理解のための学習を行います。また、英語圏諸国の基本的な文化理解も適宜行います。	1. 修得した文法知識や表現方法を使って日常的に使われる英文や、やや複雑な英語表現を理解することができ、簡単な英文を作成することができる。 2. 英語圏諸国の文化について、基本的な事項を理解することができる。 3. 授業で学習した内容の問題において、得点の60%程度取得することができる。	○	◎	○
総合 共通 科目	異文化を考える	1-2年生	前	交通網の発達で海外の国々が身近になった現在、21世紀を生きる皆さんにとって外国の文化を知ることは大切なことだと思います。この講義では、英語圏の国の中でも、特に、イギリスに焦点をあて、イギリス文化を多方面から学習して行きます。講義では、イギリス文化関係の専門書を用いて、イギリスの位置や気候からイギリスの4つの地域、繁栄の歴史、階級制度などまで学習します。時間が許せば、テーマを決めて、学生自身が発表する機会も設けたいと考えています。	・英語圏の文化を学ぶことによって、国際社会で生きて行くことが可能な教養を身につけることができる。・国際情勢に敏感な意識を持つことができるようになる。	◎		
総合 共通 科目	異文化を考える	1-2年生	前	この授業ではアメリカの文化や歴史に関して学びます。アメリカの総人口は約3億3329万人です。アメリカは日本と違い、多民族国家で、「人種のサラダボール」とも言われています。アメリカについて学ぶということは、多様な異文化について学びを深めるということにつながります。非白人の合計が、2050年までには白人の人口を上回ると言われています。最近の移民は白人が少なく、ヒスパニック系やアジア系が多いとされていて、多様な言語や習慣がアメリカに入ってきています。アメリカの文化や歴史をパワーポイント、ドキュメンタリー、文学作品、映画等で学び、アメリカの語々の問題に対する批判的思考を培います。	①多角的にアメリカの文化、歴史、社会問題に関して理解することで、固定観念にとらわれない批判的思考を身につけることができる。②アメリカの文化・歴史に関して簡潔に説明できる。③異文化の社会問題に関して、基本的な自分の意見を他者に伝えることができる。④アメリカの文化や歴史的背景が分かるドキュメンタリーや映画、文学作品などを通して基本的なアメリカの文化等の知識が身につく。	◎	○	○
総合 共通 科目	異文化を考える	1-2年生	前・後	アメリカは超大国として今なお軍事や経済など、様々な面で世界に多大な影響を及ぼしている。日本とアメリカに関しても時に協力し合い、時に批判し合っておりその例外ではない。しかし、そのイメージとは裏腹に、アメリカは決して建国の当初から強大な国ではなかった。第1～9回目では、時系列順にアメリカ成立以降の道程を当時の文化に触れながら説明する。第10～14回目では、それぞれテーマを絞り、現代のアメリカにおける様々な問題を扱う。	①歴史を学ぶことで、アメリカという国を具体的、客観的に知ることができる。②文学作品や映画などを通してアメリカの文化に触れ、理解することができる。③アメリカにおける諸問題を学び、多文化共生に必要な視点を持つことができる。	◎	○	
総合 共通 科目	異文化を考える	1-2年生	後	中国の古典小説『三国志演義』は名言の宝庫と言ってもよい。「三顧の礼」をはじめ、世に知られた名句も多い。この講義では、『三国志演義』にまつわる名句を学習しながら、小説における虚実の組み合わせや英雄豪傑の人物像を理解する。具体的に、「桃園の誓い」や「三顧の礼」「赤壁の戦い」などの名場面を中心に、DVD映像を鑑賞しながら、パワーポイントと配布資料を通して勉強を進めていく。各講義の終了時には、ミッツペーパーに質問や感想などを書いて提出することが求められる。	中国のことばと文化に興味を持ち、三国志物語の面白さを知る。また、中国の社会や文化、及び人々の考え方をより深く理解できる。さらに、学習を通して得られる世界についての情報を深く理解し、現代の日本社会について広い視野から考えられるようになる。	◎	○	○
総合 共通 科目	異文化を考える	1-2年生	後	「異文化」がもたらす「外国」や「外国人」との連関で認識されることには一定の批判を向けるとしても、「グローバル化」「ボーダレス化」が一般化した時代を生きる今日の私たちは、日常的に「異文化」の存在を強烈に意識させられています。そうした状況下では多様性の共生が求められる一方で、現実には自らの価値観から外れる他者を排斥する傾向も顕在化しています。本講義では、主にヨーロッパを対象として、歴史、政治、文化的背景などの多様な観点と関連づけながら、「異文化」というテーマに多角的にアプローチします。	1. 「異文化」に対する既存のイメージと現実のギャップを客観化することができる。 2. 「文化」を形成する諸要素を認識し分析的に理解することができる。 3. 「異文化」間の相互理解のための有効な切り口を見だし、他者への寛容性につなげることができる。	◎	○	○